

ふらの農業委員会だより vol.43

令和5年2月

【発行】富良野市農業委員会

電話 0167(39)2323

FAX 0167(23)2122

- ★主な内容
- 新年挨拶(1ページ)
 - 道外視察研修報告(2～4ページ)
 - 諸行事報告(4～6ページ)
 - ふらの未来農業EXPO2022(7ページ)
 - 総会予定日・賃貸料一覧(8ページ)



新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましてはご家族お揃いにて新年を迎えられたことに心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、未だ収束しない新型コロナウイルス感染症による世界的な経済停滞が続きました。特に中国では、ゼロコロナ政策による急激な港湾作業労働者不足により海上コンテナが大量に停滞し、世界的な海上コンテナ不足の原因となりました。加えて世界に衝撃を与えた2月のロシアによるウクライナへの軍事侵攻により、世界有数の半導体生産国ウクライナに壊滅的な状況を与えてしまい世界的な半導体不足を加速させた結果、製品納期にかなりの時間を要する事態となり、我々農業者が使う農機具においても納期に1～4年と言う未だ体験した事の無い事態となつてしまいました。日本経済においても、燃油価格の急激な高騰による輸送コストの上昇や、1ドル151円まで上昇した円安などの影響で日常生活必需品が段階的に値上がりするなど国民生活においても決して喜べる年ではありませんでした。一方、北京オリンピックやサッカーワールドカップによる日本人選手の活躍など、数少ない明るい話題もありました。

富良野農業においては天候にも恵まれ、農産物価格においても高水準・高収量で労働の汗が報われた年でありましたが、酪農家においては、急激な飼料価格高騰や個体販売価格の暴落、生乳の生産制限等の3重苦で多くの酪農家が苦しみました。

さて本年7月には、全国多数の農業委員会の改選期を迎えます。富良野市においては令和6年3月31日までの任期となります。現在は中立委員1人を含め23人の農業委員体制です。国が進める「男女共同参加社会基本法」施行により令和5年改選期においては全体数の20%以上、令和7年度以降は30%以上の女性農業委員の選出が目標とされ、本年富良野市農業委員会として最重要課題であり、今後関係機関と協議し更には地域の皆様方のご意見も参考にし、解決の糸口を見出したいと考えます。

例年同様であります。上川地方連・北海道農業会議を通じての要請活動も従来通り継続し今後も意欲ある担い手への農地集積、農地パトロールの強化、農業者年金への加入促進等、関係機関と連携強化していきます。

結びに、皆様方のご健勝で稔り多い1年になりますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。



会長挨拶

富良野市農業委員会

会長 及川栄樹

道外視察研修

11月13日～16日の4日間、農地部会の委員11名で愛媛県今治市・西条市、香川県小豆島の視察研修を行ってきました。ここではレポートを抜粋して紹介します。

■農地部会道外視察研修

11月13日～16日の3泊4日の視察研修に行かせて頂きました。旭川空港から羽田で乗り継ぎ、広島空港に着。

14日朝、しまなみ海道へ視察で道の駅「多々羅しまなみ公園」(愛媛県大三島)へ行き、柑橘類の品種が豊富にあり驚きました。次にJA直売所(JAおちいまばりグループ)「さいさいきてまばりグループ」。「さいさいきてまばりグループ」では、JAいまばり管内の農産物(野菜・果物・花)牛肉、豚肉、鶏肉、魚介類も地元今治産にこだわって、安心、安全な農畜産物が販売されていました。また、農園「キッチンスタジオ」など、様々な今治の農と食を支えられています。店舗の中は、大勢の人で賑わっていました。地元の人達を中心に地方からも多くの人に利用されているのがよくわかりました。

続いて、愛媛県西条市農業委員会、会長、職務代理、事務局長、愛媛県農業共済組合副組合長、JA周桑農業協同組合運営協議会副会長の5名の方と懇談をさせていただきました。

西条市は、水が大変豊かで、市内には3千本の「うちぬき」があり、市民生活には欠かせないもので、農業、工業、漁業、観光と恵まれたバランスの良い地域だと思いました。歴史、文化、風土は富良野との違いはありますが、目指す志は同じという事で、色々な話をする事ができ、充実した懇談となりました。

15日、小豆島に渡り「東洋オリーブ」と「小豆島オリーブ園」の視察をさせて頂きました。小豆島とオリーブの歴史を伺い、島の住民や土地、環境が融合して成り立っていると感じました。栽培から加工、販売が小豆島の中で一貫されています。

今回の研修を振り返って、外へ目を向け改めて富良野を認識することが出来たのではないかと思います。

研修で得た事を、今後の活動に活かしていきたいと思えます。

(岡田 憲雄)

■農産物直売所視察

最初の視察先は多々羅しまなみ公園の屋台市の直売所でした。

朝9時の開店前から視察を行い、農家による農産物の搬入を直接見ることができました。11月から柑橘系の出荷が始まり次の年の5月まで数多くの種類のミカンが出荷されていると聞きましました。搬入している生産者はかなり高齢な方たちでしたが、手慣れた様子でミカンの商品棚に陳列していました。

昔は蚊取り線香の原料の除虫菊の栽培が盛んでしたが、戦後に衰退し、ミカン栽培に切り替えて営農しているようです。

2006年にしまなみ海道が全線開通し船でしか行き来の出来なかつた大三島にも本州や四国から観光客がこの屋台市を訪れていました。年中暖かい瀬戸内の温暖な気候により、1年を通じて色々な作物が市場に並ぶ地域は、雪が降る北海道出身の自分にとって魅力ある地域に思われましました。

その後JAおちいまばりの直売所「さいさいきて屋」を視察しました。

平成12年にJAが高齢化による農協離れを食い止めるため生産者会員の小さな直売所をオープンした所、

売り上げが好調で2年後に郊外に移転、その後も売り上げは上がり続けて、ついには現在のさいさいきて屋をオープン、最初の店舗からわずか7年でJA直売店全国3位の20億の売り上げになりました。野菜の陳列から価格まで生産者に任せているやり方を進めるうちに生産者会員は90人から1500人に増え、当初の目標である農協離れを止めることや6次産業化にも一役買っているようです。

店の中を見てみると肉、魚、野菜など品ぞろえは豊富でしたが、その中でも売り場面積が一番大きいのが柑橘系でした。来店客も多くはミカンを買いに来っており、混雑していました。

地域で生産されている農産物を求めてしまなみ海道を渡って本州から買いに来る客も多く、



物流や、交通の改善による効果がこの直売店の成功につながっている事が分かりました。またその人の流れをどの様に地域に呼び込むか考え、そして行動に移すことが生産者や直売所にとって持続的な発展につながっているのではないかと思われま

す。
(杉村 鉄也)

■愛媛県西条市農業委員会視察

西条市農業委員会からは会長を含め計5名で対応して頂きました。瀬戸内海気候における農業経営と現状の課題と対策、特に遊休農地・耕作放棄地への取り組みについて焦点を当てて意見交換をしてきました。

西条市は愛媛県東部に位置し、南は西日本最高峰石鎚山、北は瀬戸内海に囲まれた約10万6千人の都市です。産業は農業と工業が中心で海岸は瀬戸内海の工業地帯となっており、内陸は四国一の耕作面積を誇る農業地帯となっています。約5千6百haの耕地面積の内約3千3百haが水稲作付けとなっていますが、瀬戸内式気候により野菜や施設園芸等、多種多様な農業を行っている地域でした。

特に西条市は水の都と称されるほどで、地下の岩盤によってせき止められた水が地上からパイプを15mほど打ち込むと自噴

する「うちぬき」（地下水の自噴井）という場所が市内に3千ほどあります。市民生活や農業には欠かせない物で正に水の都そのものと思われました。西条市の総農家数は約3千と富良野市の5倍強があり、1戸当たりの経営面積も2ha以下が約8割ではありますが愛媛県全体では約9割なので比較的集約が進んでいるとのことでした。しかし農業従事者の内65歳以上が約7割と高齢化が進行しており、深刻な状況であると話されていました。

また遊休農地については水田で106ha・畑で82haがあり、特に中山間地に於いて、基盤整備が進んでいない土地で農業従事者の高齢化による耕作放棄地が目立ってきているようです。近年兼業農家が農地を手放すことが増えてきているため、個人では受け手がみつからず集落営農や集団営農で農地を受けているがかなり限界も近づいてきて、なかなか集積がうまくいかないことも多くなってきていると話していました。

鳥獣害の被害等について質問したところ一番多い被害が猪によるもので、近年は市街地にも降りて来る状況が増えてきて



食害がひどくなっているとの事でした。北海道での鹿の被害同様、対策への助成が必要だと話されていました。西条市では戦後小作権が残ってしまい、利用権の設定ができなかったり、それが有るため基盤整備を諦めたりと大きな問題が有るとの事でした。小作権については昔の庄屋さんや大地主が所有しているため集積等が進まないと言苦勞をされています。今回の研修で西条市も富良野市も同じような問題を抱えている事が分かりました。しかしながら西条市など本州は歴史の古い地域が多いため、富良野市ではないような問題が多々有るのだと知りました。農業に関わる課題は何処でも似

ていると思いますが、地域に合った対応により解決出来るよう提言していきたいと思えます。

(渡辺 昌彦)

■東洋オリーブ株式会社視察

瀬戸内海に浮かぶ小豆島は、周囲が約120kmと瀬戸内海で2番目に大きな島で人口は約30,000人。その広大な大地と瀬戸内の気候を生かし、醤油、手延べ素麺など、さまざまな特産品があります。その中でも特に有名なものがオリーブです。オリーブが本格的に日本に導入されたのは、明治41年、当時の農商務省がイワシやマグロの缶詰に使うためのオリーブオイルを国内自給する目的で鹿児島・香川（小豆島）・三重の3県で試験植樹をしたのですが、その中で小豆島だけが栽培に成功しました。これが日本のオリーブの発祥といわれます。

東洋オリーブ株式会社は、昭和30年豊島（てしま）にオリーブ農園を開園してから60年余が経ち現在、小豆島、豊島で12,000本のオリーブを自社農園で栽培し、日本一の規模を誇っています。

海外のオリーブ産地では収穫機械により一斉に収穫を行うのが一般的ですが、ここでは、オイルの品質を最優先として病虫

害の被害にあった果実を樹上で選別するために収穫は手摘みにこだわり、全て手作業で行っています。日本でのオリーブオイルの生産量は500t〜600tであり、そのうち100tを搾るといふことでした。順調に需要が伸びているオリーブオイルの生産ですが、生産量の増加に伴い搾油時に出る、ふすま（絞りかす）と剪定枝の処理という課題も発生してきています。解決策として、循環型農業を推進し、剪定枝は粉碎、堆肥化し圃場への還元を行い、ふすまについては乾燥させ牛や魚（オリー



ブ牛、オリーブぶり）の餌として処理し、新たなブランド品目の開発にも貢献していただきました。日本国内におけるオリーブオイルの生産量は小豆島を含む香川県で90%以上を占め、その他副産物等で新たなブランドの構築など日本一の規模をほこる東洋オリーブ株式会社（オリーブ栽培は地域のみならず、国内においても大きな影響を与えていると思われる。佐藤 輝夫）

■小豆島オリーブ園視察

小豆島オリーブ園には、日本最古といわれる産業用オリーブの原木があります。この木は1917年にオリーブ栽培試験用として香川県より配布されたうちの1本だそうです。国内三カ所で試験が行われていたが、台風や病虫害の被害で他地域が栽培を断念する中、小豆島の試験園が初めて産業化に成功し、産業用オリーブ発祥の地となったそうです。

園内には、見学可能なオリーブの加工場やオリーブオイルのオリジナルブレンドといったプログラムの体験スペース、ギャラリ、レストラン、ショップがあり、またオリーブ以外にも香水用のジャスミンやミモザなどの南欧植物も栽培されており、四季を通して五感で楽しめる観

光農園となっています。ショップでは、オリーブオイルを始めとして、ドレッシングやジャムなどの調味料、グリーンオリーブの新漬け、オリーブ素麺、さらには石鹸やスキンケアクリーム、乳液などの化粧品といった様々なオリーブ加工品が売られています。国産オリーブの希少価値の高さを生かし、より付加価値を高めるため、収穫は手摘みを基本としていて、高品質の商品を高価格で販売することを可能にしていると感じました。（猫山 幸稔）



活動報告

▼市長部局と合同で作柄調査を実施 …… 7月15日

7月15日（金）、農業委員22名、事務局3名と、経済部から3名、普及センターから2名の参加で市内の各地を回って調査を行いました。

調査前に普及センターより今年の気象動向と作育状況の解説を受けてから出発しました。午前は中五区にある富良野市場玉葱等関連施設の視察を、それから南扇山のミニトマト農家、北扇山の人参農家を回り、午後からは西学田の玉葱農家、東富丘の麦農家と小豆農家、東山の馬鈴薯農家とミニトマト農家、山部の球根農家と水稻農家をそれぞれ視察しました。

まず、富良野市場の視察では、井山社長を始め折館総務部長や担当者の方々に対応いただき、平成30年に中五区に剥き玉葱工場が出来てから6年かけて整備されてきた選果場や貯蔵施設、堆肥処理場等の設備を見せていただきました。より良い商品を生み出すための設備投資は、とても頼もしく感じられました。



各地区農家の視察については、これまでの天候が良好でどの作物も概ね豊作傾向にある、と見ました。昨年が特にひどい不作の年であったため、今年は大いに期待が持てる秋になるのではないかと思われました。

今年の調査を終えて、どの地区も概ね良好に推移しており期待の持てる収穫になりそうな半面、ウクライナ情勢に端を発する円安ドル高から来る燃料や肥料等の資材の高騰の影響がはじめている状況は豊作に水を差す形になりそうではあります。ですがこの様な時勢に飲まれるこ

となく、来年も良い出来秋を迎えたいと思います。
最後になりますが、お忙しい中我々の視察にご対応いただいた関係者の皆様にはこの場を借りてお礼申し上げます。
(今村 丈哲)

▼市議会議員との意見交換

8月18日

昨年引き続き市議会が実施する「議会とまちづくりトーク」で、議員の皆様と意見交換会をおこないました。テーマを①「鳥獣害対策」、②「担い手対策」とし、それぞれの現状と対策、課題について話し合いました。

冒頭、経済建設委員会の小林委員長から挨拶と今回で2回目となる経緯などの説明をいただいた後、農業委員会の及川会長より富良野市の農業の歴史的背景と経過の説明、農地の生産性向上と基盤整備の必要性や、大型機械化による農用地道路の拡幅が喫緊の課題であることについてお伝えしました。

鳥獣害対策については、東部地区における金網製の鹿柵でも、以前より鹿の個体数の増加により被害が増加している事や、木製支柱の腐食による老朽化の問題について説明しました。東山地区においては、離農による経



営体の減少による管理不足が問題提起されました。山部地区においては、樹脂ネット製の鹿柵の老朽化が指摘されました。

2万3000haの東大演習林の鹿の個体管理や、串内牧場での鹿による害が2000頭以上で出ている現状など、国や市町村単位での連携的、包括的な鳥獣対策が必要です。

ハンター免許の補助金の増額決定がなされたことや、以前から問題視されている廃屋や使用できない倉庫が有害鳥獣の住みかとなっていることなど様々な意見がでました。

担い手対策としては、法人における従業員の育成の必要性や、労働基準法を順守した雇用形態(働き方改革)の必要性と農業技術の監督指導や心のケア等の必要性が提起されました。

担い手は、農業後継でもあるがその地域住民としての大切な居住者でもあるとの声もありました。

今後、世界規模での食料安全保障や原油高騰に係る農業資材の高騰など、様々な問題を市議会と農業委員会とで情報共有をすることを確認しました。最後にこの場を借りて富良野市議会議員の皆様にお礼申し上げます。
(坂口 邦夫)

▼アグリ・パートナー イベントを開催

10月15〜16日

第10回を迎える富良野地方オータムフェスティバルを、感染対策を行いながら3年ぶりに開催しました。(主催・富良野地方アグリ・パートナー協議会)

参加者は農業青年が、富良野市3名・上富良野町3名・中富良野町2名・南富良野町2名・占冠村1名の計11名、女性は当日欠席が1名あり10名となりました。今年は、予想以上に女性からの問い合わせや参加希望者が多い傾向にありました。

富良野人材開発センターで開
会式を開催、農業青年の事前研
修をした後、1対1でのフリー
トークを始めた時から緊張がほ
どけ笑い声が会場に響いていた
印象でした。

今回のオータムフェスティバル
は、宿泊施設・食事・イベン
ト企画すべて参加女性を一番に
考えた企画内容にいたしました。
イベント企画のボーリングや夕
食時はとても盛り上がり農業青
年も積極的に参加していました。

その結果、マッチングは5組
となり、約半数の方が交際への
スタートラインに立つことがで
きました。

このイベントを通して、今後
の進展に期待し農業委員会とし
て見守り応援していきたいと思
います。
(事務局)



▼農地パトロールを実施

.....10月17日

農業委員会では、市内の農地
利用の確認、遊休農地の実態把
握と違反転用発生防止のため、
農地パトロールを実施していま
す。農地パトロールは、農地法
により年一回実施することが定
められているもので、農地パト
ロール推進会議を開催の上、実
施します。

各担当エリアの見回り、地域
委員での見回りの後、農地部会
としての現地調査を10月17日
に実施しました。各地域から遊休
農地として報告された市内13か
所の農地を現地確認し、調査結
果を元に必要に応じて所有者に
利用意向調査を行うなどの処置
を行います。

農地パトロールの実施により、
各地域での多種多様な問題があ
ることを再度確認できました。
このことを通して、委員で富良
野農業の発展を目指したいと思
います。

今後皆様のご理解ご協力を
よろしく願います。
(仁原 憲和)

▼研修会に参加

.....12月6日

12月6日、3年ぶりとなる地



区別農業委員・農地利用最適化
推進委員等研修会が旭川市大雪
クリスタルホールにて開催され、
管内から多くの委員が参加しま
した。

主催者である北海道農業会議
より、まず現在の農業、農業委
員会をめぐる情勢として、

- 食料の安全保障のための予算
の確保や、燃料、肥料などの
価格高騰対策などの国への働
きかけの状況

- 水田活用の直接支払交付金の
見直しによる北海道農業への
影響について

- 女性農業者が一層活躍できる
環境整備を進めていくため、
女性農業委員の割合向上の推
進

などについての報告がありまし
た。

続いて、農業経営基盤強化法
等の一部改正の内容について説
明があり、農用地利用集積計画
が廃止され、中間管理事業（農
地バンク事業）に統合されるこ
とや、人・農地プランの法制化、
認定農業者制度を活用した農業
用施設への転用などについての
解説がされ、今後の農業委員、
農業委員会の役割についての情
報を得ることができました。

また、農業者年金のメリット
や加入の推進、全国農業新聞の
購読推進について説明いただき
ました。
(清水 直樹)

★農地を相続したら★

法務局での相続登記が必要
です。その後、農業委員会への
届出も必要となります。

(司法書士等に相談してください。)

ふらの未来農業EXPO2022開催

ふらの農業DXがメインテーマ 富良野農業3つの農力の向上 (経営力・技術力・人間力)



●農業における様々な分野でのデジタル活用

市では今年から「富良野農業の3つの能力向上」をコンセプトに、経営力・技術力・人間力を中心としたフォーラムやセミナー、視察、展示会そして体験型講習会を行ってきました。省力化や効率化に資する技術といった現場目線の内容はもとより、農業の魅力を発信する内容も盛り込みながら、6日間にわたる日程で開催しています。

11月10日(新庁舎)は、「ふらの農業DX」と題したフォーラムを開催。そもそも農業DXとは何か、そして国が目指すところは何処かについての専門家による基調講演と北海道におけるスマート農業の現状と今後についての講演がありました。セミナーは5講座開催。延べ154名が参加し、各講演で参加者からの質問も多く関心の高さが伺えました。

そのほか、ホクレン訓子府実証農場を訪問し、タイストール牛舎の搾乳ロボットやハウス無加温冬季栽培などを視察しました。展示会では主にデータ活用をテーマとして、アプリやシステムを開発する企業が出展しました。そして、体験型講習会は一般消費者を対象として、市内のぶどう畑を舞台に、有識者と技術者として農業者による地域の魅力を伝える場を設けました。

農地の転用(一時転用を含む)・売買・賃貸借等は許可が必要です

農地関係の手続きについては、お近くの農業委員または事務局までお問い合わせください。

なお、令和5年度より農業経営基盤強化促進法及び関連法の改正により、認定農業者制度を活用した農業用施設への転用が可能となる手続きも追加される予定です。

全国農業新聞

週刊 月4回金曜日発行
月700円、年8,400円

- ①わかりやすい農業・農政の解説
- ②みんな知りたい経営・流通の最新情報が満載
- ③くらしと地域に活力を
- ④女性の元気を応援
- ⑤文字が大きく読みやすい

お問い合わせは
農業委員会事務局まで!

令和5年度 富良野市農業委員会総会 開催予定日

※開催日については変更になる場合があります。

委員会議案提出期限	農業委員会総会	
令和5年 1月11日(水)	第635回農業委員会総会	令和5年 1月20日(金) 15:30～
令和5年 2月10日(金)	第636回農業委員会総会	令和5年 2月22日(水) 14:00～
令和5年 3月10日(金)	第637回農業委員会総会	令和5年 3月24日(金) 14:00～
令和5年 4月 7日(金)	第638回農業委員会総会	令和5年 4月19日(水) 14:00～
令和5年 5月11日(木)	第639回農業委員会総会	令和5年 5月26日(金) 14:00～
令和5年 6月 9日(金)	第640回農業委員会総会	令和5年 6月20日(火) 14:00～
令和5年 7月13日(木)	第641回農業委員会総会	令和5年 7月26日(水) 14:00～
令和5年 8月10日(木)	第642回農業委員会総会	令和5年 8月23日(水) 14:00～
令和5年 9月12日(火)	第643回農業委員会総会	令和5年 9月27日(水) 14:00～
令和5年10月11日(水)	第644回農業委員会総会	令和5年10月25日(水) 14:00～
令和5年11月 9日(木)	第645回農業委員会総会	令和5年11月21日(火) 14:00～
令和5年12月 8日(金)	第646回農業委員会総会	令和5年12月22日(金) 15:30～

富良野市の農地賃貸料情報

令和4年1月から令和4年12月までに締結（公告）された賃貸借における賃借料水準（10a当り）は、以下の通りとなっています。

【田（水田）の部】

締結（公告）された地域名	平均額	最高額	最低額	データ数
富良野西部全域	9,000円	12,000円	6,800円	17件
山 部 全 域	4,600円	6,000円	2,300円	38件
東 山 全 域	3,700円	5,000円	1,500円	34件
富良野東部全域	0円	0円	0円	0件
（参考）富良野市平均	5,700円	—	—	89件

【畑（普通畑）の部】

締結（公告）された地域名	平均額	最高額	最低額	データ数
富良野西部全域	3,500円	5,100円	1,000円	45件
山 部 全 域	3,000円	4,000円	1,900円	18件
東 山 全 域	2,400円	3,500円	1,000円	42件
富良野東部全域	1,600円	1,600円	1,600円	9件
（参考）富良野市平均	2,600円	—	—	114件

- ※1 データ数は、集計に用いた筆数である。
- ※2 金額は、算出結果を四捨五入し100円単位としている。
- ※3 データ数5件未満は情報提供対象外とする。
- ※6 富良野市東部全域は八幡丘・富丘・布礼別・麓郷地区とする。
- ※5 富良野西部全域は山部・東山・富良野東部全域を除いた地域とする。